

城乾コミュニティセンター市長懇談会

○日 時：平成 30 年 8 月 22 日（水） 午後 7 時～8 時 25 分

○場 所：城乾コミュニティセンター

○参加者：43 名

○担当者：市長

地域担当職員 徳田（職員課）・亀山（保険課）・大山（文化課）
繁（健康課）

1. 会長あいさつ

今年の夏は西日本豪雨、異常な猛暑など安全安心に関わる事が多数発生しました。

城乾地区も人口が減少しており、10 年前の 3,400 人から現在は 3,000 人を切る状況で、高齢化率も 34.4%と市内でも高くなっています。少子高齢化の波の中でコミュニティをどのように運営するかについて、4 月には第 2 次まちづくり計画を作成しました。

平成 30 年度のスローガンとして「共につくろう笑顔あふれるまち城乾」と掲げていますが、副題として「固い絆」、「安全安心」、「笑顔」という 3 つのキーワードを作り、まず一つにはあいさつ運動に取り組み、それが地域住民の皆さんの固い絆づくり、安全安心につながるのではないかと考えています。

本日は城乾地区の懸案事項を 3 つ出していますが、市長からは市政を踏まえての考えを聞かせていただくとともに、ご参会の皆さんの忌憚のないご意見をお願いします。

本日は意見を出し合いながら有意義な懇談会にしたいと思っていますのでよろしくお願いします。

2. 市長あいさつ

台風 20 号が着ており、明日午前に警報が出ることが予想されています。城乾地区で心配されるのは高潮と内水氾濫ですが、満潮時刻は明日の夜中になります。午後 3 時ごろに避難準備情報を出す予定です。避難所はこのコミュニティセンターを使わせていただきますが、ご心配な方はできるだけ明るいうちに避難するようにお願いします。

初めに丸亀市総合計画について説明させていただきます。合併したときに第 1 次総合計画を策定し、一昨年で 10 年が経過しました。その後を引き継ぐ計画として第 2 次総合計画を作りました。これは 4 年ずつ前期と後期に分け 8 年間で重点的に取り組む内容を

決めています。庁舎の建て替え、市民会館の建設、コミュニティセンターの整備など基幹的なハード整備なども含めて「豊かで暮らしやすいまち 丸亀」を目指そうという計画になっています。

その中で、大きい柱が5つあります。1つは「子育ての支援」です。子どもが安心して育つような環境を作ります。2つ目は「安心安全」で、地域で暮らす場合には非常に大きな幸せの尺度となります。3つ目は「産業の活性化」です。若い人も含めて働く場所、まち全体に活力が生まれる賑わいのあるまちを作ります。4つ目は「健康づくり」。城乾地区の高齢化率は34.4%ということですが、元気でいつまでも活躍できるためには、自分たちで努力して健康づくりに取り組むことが大事だと思います。最後5つ目は、このようなことは市民総ぐるみで取り組む、特にコミュニティ活動は充実強化させていただいていますが、地域ごとの特色に沿った形で行えるように市も協力するということで「みんなで作る」としています。この計画を軸に毎年度の予算編成に反映しながら進めていきますので、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

もうひとつは都市計画のマスタープランで、土地利用の計画になります。20年ぐらいの長い計画で、丸亀だけの計画ではなく、県全体の計画ですが、10年経過したので中間見直しをしました。

1つはこの城乾地区も含む中心市街地地区で、この地区は丸亀市全体の中心拠点でもあり、交流拠点でもありますので、都市機能を集中させるとともに、周辺地区と公共交通で繋ぐという機能的なまちづくりを進めていくという考え方です。この計画と整合性が取れるように中心市街地の中のさらに中心となる大手町地区の4街区をどのような形にするのかということも議会にも報告させていただきました。その原案ができ、9月にはパブリックコメントの募集を開始しますので、意見をいただきたいと思います。

綾歌・飯山地区についても、それぞれ地域での拠点を設けて位置づけさせていただきました。また新たに総合運動公園地区を、大勢の人がスポーツを通じて交流するまち拠点として設定した。

この二つの計画はいずれもボリュームのあるもので、お渡ししているものはダイジェスト版ですが、詳しいものは市役所などでご覧いただければありがたいと思います。この計画に沿って市ではまちづくりを進めてまいります。随時皆さんの意見を聞きながらその時にあった予算編成で実現してまいりたいと考えていますのでよろしくお願いします。

3.事前提出の懸案事項

①城乾コミュニティセンターのソーラー化について

当センターの建物は災害時の避難所・避難場所に指定されており、電気、水道等ライフラインの被害によりセンターの機能もストップするなか、センターのソーラー化により非常時でも電気が使えるようにしていただきたい。

(市長)

新たにコミュニティセンターを建て替えるときには、太陽光発電設備を設置していただき、現在は郡家、土器、広島の3ヶ所、また耐震改修中の栗熊、新築中の城坤においても設置しています。これは観点としては非常用ということよりも、地球温暖化対策の中で再生可能なエネルギーを使うという施策です。

非常時でも電気が使えるようにとのご意見ですが、現在、太陽光発電設備を設置しているコミュニティセンターは、電気が止まっている状態でも太陽が出ていれば使用できるコンセントを配備していますが、コンセントや照明で使用する電力とエアコン等で使用する電力は系統が異なるため、太陽光による発電ができていたとしてもエアコン等は使用できない状況です。非常用の電源は、それはそれで考えていかなければならないものです。

この城乾コミュニティセンターへの設置については、まだ未整備のセンターもありますので、建物の改修等の時期でなければ難しいので、将来課題として考えさせていただきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

②センター正面の電柱の移設について

当センターは災害時の避難所となっていますが、センターの玄関正面に電柱（トランス2基）があり、災害等で倒れば入り口が使いなくなり、避難所としての役目ができなくなるため、当センター前の電柱の移設をしていただきたい。

(市長)

昨年も無電柱化ということでご要望をいただきましたが、無電柱化には1kmで約3億円というお話もありました。

設置者である四国電力㈱に確認したところ、電柱は震度6の大地震でも単独で倒壊しないよう設計されていて、5年に1度ひび割れ等の詳細点検、2年に1度の巡視を行っていて、現在まで異常は確認できていないとのことでした。

指定避難所のコミュニティセンターに入るときに邪魔になる、倒れると危険だということで電柱移設ということですが、相当の費用負担および移設先の検討が必要になります。電柱は等間隔に設置する必要がありますので、移設しても大きな変更はできないとも考え

られます。とすれば無電柱化ということになります。無電柱を促進する全国の首長の会というのがあり、国の基準を変えられないかということで検討しているが、実現するとしても相当先になる。今のところは、具体的な電柱移設の場所などについて、可能であればお願いするというので四国電力と相談させていただきます。

③西幼稚園の現状維持について

西幼稚園を現状のまま当場所に残してもらいたい。当地区には幼稚園・小学校・高等学校があり、文教地域を形成しています。

特に西幼稚園・城乾小学校は百年以上の歴史があり、多くの園児や児童が学び巣立ちました。少子化が進むなか。心豊かで健やかに育てられるよう地域の「まちづくり計画」Ⅱを平成30年4月に作り地域が一体となって、西幼稚園園児と高齢者の「ふれあい会」や城乾小学校児童対象の「放課後子ども教室」を開催し、「子育てするなら城乾」を合言葉に取り組んでいます。

(市長)

先ほど4街区のお話しをした時に中央保育所の移転についても述べました。以前には西幼稚園と中央保育所の統合という話もあったが、今回は、中央保育所は単独で移転することになっています。しかし、城北幼稚園と平山保育所が来年統合されます。城北幼稚園も歴史がありますが、こども園として今の平山保育所に移ります。この件でも名前をどうするかで意見がわれており、まだ決定していません。このように、これからは幼稚園と保育所の統合ということは十分に考えられることです。時代にあった子育て支援のあり方に変えていく必要があると思っています。それぞれ思いいれもあろうかと思いますが、大事なものは中身ですので、西幼稚園がこども園として変わったとしても、地域の中にあり、教育方針を引き継いでいくということが重要であると思っています。

また幼稚園や保育所を建て替えるということになれば、議会でも民営化の話が出てきます。運営形態も時代とともに変わる可能性はあります。

新しいこども未来計画が議論されていますが、耐用年数などを考えると、ただちに西幼稚園が議題に上ることはないと思いますので、将来のビジョンは長いスパンで皆さまと考えていく必要があると考えています。

(男性)

西幼稚園は香川県内で一番古い。博物館的な幼稚園として残さなければ歴史が残せないと思う。こども園という国の方針は理解できるが、丸亀で一つくらい、幼稚園と

いう形があったということはこの地区に残してほしいと思う。行財政改革だけが良いわけではない。

(市長)

本島中学校も小学校と統合します。それは子どもにとってもいい環境にするためです。丸亀でも待機児童が発生しています。保育所に入りたい人が増え、幼稚園は減っている現状で有効な資源の使い方になっていない状況です。歴史などは充分理解できるが、それだけではいけないので皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

(男性)

東幼稚園が一番古かった。廃止するときには城北幼稚園を東幼稚園として名前を残してほしいと言ったが、ダメだった。親が自分の好き勝手するために手を抜いて他人任せの保育所にやり、幼稚園に行く子が少なくなった。それで人の痛みのわからない子どもが増えた。幼稚園のほうが命の大切さなどの教育がしっかりできると思う。

(男性)

西幼稚園の存続について、23年度は約5,600名、昨年度は201名追加分の嘆願書を提出し、今年度も再度お願いに伺う予定です。0歳児保育や長時間保育は、親が負うべき子育ての責任を肩代わりするサービスを優先させているように見える。丸亀市の子育て環境づくりの方針をお聞きしたい。子どもが小さいときには家庭でゆっくりと育てたいという親は多い。働いていない母親に肩身の狭い思いをさせてはいけないと思います。地域の中で子育てを楽しみ、保護者も育っていく、それは城乾地区、西幼稚園の教育そのものです。また一時預かり事業は充実していただき、助かっている家庭は多い。このような地域や家庭の実情に合わせた環境づくりに取り組んでいただきたいと思います。

(市長)

保育所の親が子どもを見ていないとか、子どもとの時間を大切にしていないという考え方はいかがなものかと思う。それぞれの状況に応じて、親子の関係が深まるような教育・保育が必要ですので、両方ともしっかり考えなければいけない。

お話しにありましたように、幼稚園にできるだけ預かり保育をお願いしているが、なかなか進まない状況があります。市役所の今持っている資源の中でできるだけ努力をいたしたい。

4.自由討議

① 停車場線などについて（男性）

県道の停車場線について県にお願いし、測量など行ってもらいましたが、現状はどのようなになっているでしょうか。

また電柱については地震で倒れないというが、電柱は倒れるというのが通説になっています。危機管理の点から行政が本腰を入れてやっていただきたい。

また、新庁舎整備の中で税務署を移転すると聞いたが、経緯を教えてください。

（市長）

停車場線は県に強く申し上げていますが、まだ具体的な図面の提示がありません。長い時間がかかるものと考えていますが、できるだけ早く検討結果を知らせてもらうように求めたいと思います。

電柱については確かにおっしゃるとおり震度 6 で倒れないといわれましたが、6 強ならどうなのかということもあります。ご心配の件を解消するためには、やはり無電柱化しかないと考えます。避難所の周辺で無電柱化ができないか、全国市長会などを通じて要望したい。

税務署については他の場所も提示したが、市役所に近い場所、そして駐車場を市庁舎と共有させてほしいなどの意見であり、市としては 4 街区の真ん中の今の位置ではまちづくりも難しいということで決定したということです。

② 防災について（男性）

高潮の時には福島駐車場を利用するように言われているが、地震、津波の時でも大丈夫でしょうか。あの周辺のビルがもし大きな地震で倒れ、そして駐車場が西側に倒れたら、高齢の周辺住民は通れる道がなくなる。駐車場の耐震はどうなっているでしょうか。

（市長）

大きな地震があり津波が来るということになれば、津波が来るまでに間に合う、できるだけ近くの被害のないビルなどに逃げていただきたい。福島駐車場については、先ほどの電柱の議論と同じで、地震の規模にもよるが、その時に大丈夫であれば利用していただきたい。そのようなことを地域の防災計画の中で検討していただきたい。

③ 西幼稚園について（会長）

西幼稚園は 120 年の伝統のある素晴らしい保育環境であると思っています。こども

園という形になっても、ぜひ残していただきたい。城乾の地域に西幼稚園、そして小学校があり、子ども達の元気な姿を見るだけで、地域に元気が出てきますので、ぜひお願いします。

(市長)

西幼稚園は素晴らしい幼稚園であると思っているが、一時預かりや夏休みの間の預かり、また地域の中での教育支援のボランティアに協力していただくとか、残すとしても時代の変化とともに中身も進化させていかなければならない。民営化などの意見も当然出てきます。地域の中でどのように存続させるかをお互いに考えながら議論していきたいと考えています。昨年とは異なり現在は、中央保育所とは切り離して考えています。

④ 敬老会の見直しについて (所長)

敬老会の見直しの文書が届いた。内容はいいことを書いているが、急に対象が 80 歳になったというのはどうしてでしょうか。またアンケートの内容と結果とはどのようなものであったのでしょうか。

(市長)

アンケート結果は広報などでお知らせしていますが、敬老会のあり方の議論は以前からあり検討してきたものです。予算に限りのある中で対象者の絶対数が増え、今回対象は 80 歳以上、敬老祝い金は 88 歳と結論づけた。敬老会よりも、より必要な高齢者福祉サービスに予算を振り分けてほしいというアンケートの結果もあり、削減できた予算は運転免許返納者の移動手段サービスなど、他の高齢者施策に活用したいと考えています。

⑤ 防災について 2 (男性)

福島の駐車場の建物は大丈夫だと言われるが、駐車場なので車があり、当然ガソリンという危険物があるところに避難しろというのは疑問に思う。また港も近く重油を積んだ船がある。それでも大丈夫というのであれば津波避難ビルに指定していただきたい。

(市長)

地震が起きたときにはまず逃げることを優先してほしい。他に避難場所がなく、その時に大丈夫であれば使用してほしいということです。津波の際の避難場所として適切かどうかと言うと、決して適切な場所とは言えない。時間に余裕があればもっと南

のほうへ逃げていただきたいが、それができない場合もある。そのようなときには自分の命を守る行動をとってほしい。そのときの状況で、臨機応変に判断していただき、可能なところに避難をお願いしたい。

⑥ チャレンジデーについて（男性）

今年のチャレンジデーでは丸亀が94%、相手の大仙市が92%。我々が住民の方に参加を募ったところ、10~20%であったことを考えると非常に違和感がある。企業も参加したということを知ったが、地域では100%に近づくように頑張ろうと呼びかけているが、これからはどのように呼びかけようかと思っている。

（市長）

対決であるので当然ルールは統一しています。同じ人が3回運動すれば3回になるので、小さな町では100%を超えるところもあります。数が上がりすぎると行かなくてもいいと感じる人もいるということもわかりますので、笹川財団の方にも話してみたいと思います。

これをひとつのきっかけとして健康づくりを考えていただくものですので、今後もご協力をお願いします。

⑦ 防災について3（男性）

福島の駐車場は大きな地震が起こると倒れるという心配をしている。耐震の数値は出ていますか。

（市長）

計算があってもそれは推計でしかなく、避難を勧めているわけではありません。他に避難場所がなく、その時に大丈夫であれば使用してほしいということです。

ブロック塀の問題も同じですが、どこまでもつかわからないというのが実情です。細かいところまで考えてくださるのはありがたいと思います。しかし、震度がどれくらいで倒れて、どれくらいなら大丈夫ということは言えません。細かく状況を把握していただき、その都度判断して行動していただきたいので、引き続きよろしく申し上げます。

⑧ 浸水について（会長）

昨年から下水道課の方と相談し、西汐入川は早急に浚渫していただき、100 m³ほど土砂を取り除いていただき感謝しています。西汐入川と津森川の合流地点は30cmほ

どかさ上げしていますが、それを超えて水があふれ市道に流れます。下水道課にも相談しているが、もう少しかさ上げができないでしょうか。

(市長)

いつも浸水している場所ですので、ポンプを増設するなど、できる限りの対応はしています。大規模な改修については下水道課で全体設計はしているが、地元と相談しながら、とにかく浸水しないようにしていきたいと考えています。

⑨ 台風 20 号について (男性)

今来ている台風 20 号が平成 16 年の台風と同じコースであり、非常に心配している。今日、通町で防災士を呼んで、満濃池が決壊したらどうなるかなどいろいろと学んだ。丸亀市でもいろいろなハザードマップがあるが、家庭にも配布してほしい。

(市長)

市では洪水、土砂災害、ため池などいろいろなハザードマップがあるが、今年度中に新しいハザードマップを作成し、冊子にして全世帯にお配りする予定です。

⑩ 浸水について 2 (男性)

明日来る台風は非常に心配している。台風の時には水門のところに国交省からポンプ車に来ていただいている。また臨時でつけているポンプも満潮になる前に、早めに稼働していただきたい。地元の方を安心させるためにもお願いしたい。

(市長)

ポンプ車は国交省との信頼関係も深まり、最近では向こうから声をかけてくれ、早めに来てくれるようになりました。明日も現場と相談し、早めの対応ができるようにいたします。

⑪ 福島線について (男性)

駅前の福島線は防災の面からも、できるだけはやく完成させていただきたい。心待ちにしています。

(市長)

できる限りがんばってやります。